



100周年記念事業実行委員長 神余智夫

昨年から創立100周年実行委員会を立ち上げ、事業企画や寄付金の募集などを行ってきました。

そして、記念事業
スクールデコレーションを実施しました。マスコミにも取り上げられ大学の先生方や附属教員OBの先生方にも好評



価でした。100年間支えてくれた方々への感謝、子供たちの夢、保護者間の絆、保護者・児童・先生方と共に附属坂学園を大切に思う気持ちなど、様々なメッセージがリボンにのせて広く発信されました。そして、“感謝”と“絆”の赤いリボンから、次の100年の附属坂学園の輝かしい活動がスタートすると考えます。製作に携わってくれた多くの皆様に、厚く御礼申し上げます。

スクールデコレーション担当部会長 小学校役員代表 植田博司

小学校役員 石井政之・西条仁・滝上啓介
内田珠世・杉野忠伸

創立100周年おめでとうございます。また、スクーデコレーション事業に際し、たくさんの保護者の皆さまにご協力いただきありがとうございます。小学校役員を代表してお礼を申し上げます。このリボンが、「これまでの100年の歴史への感謝の標」であり「これからの新たな門出へのエール」であるとともに、児童・先生・保護者等の絆をさらに強く結びつける要であり続けることを期待しています。



スクールデコレーション製作リーダー 保護者代表 服部靖代

心配していたお天気は快晴！一生懸命の努力は運も味方になりました。航空写真の時間、皆の心が一つになった瞬間、苦労も疲労も、笑顔と歓喜で帳消しになりました。百年間という歴史、伝統を守り抜く精神に支えられ、あの大きなリボンの制作に携われた事に感謝しております。皆の想いが込められたリボンは、校舎の上で神々しく、生命力を感じるほどに、輝いていましたね！皆様、本当に有り難うございました。



こうして大きなリボンを作っていました①



2月中旬 計画検討

具体的に何をすればいいか案を出しながら絞っていきました。不安を抱えながらの製作開始です。この時、寒くて目の前にはストーブがありました。



4月下旬 リボン土台の製作

多くのお父さんの協力を得て土台作りを行いました。リボンの大きさが想像できず、こんなに大きくていいのかなあ、と首をひねりながらの作業でした。



5月上旬 土台にリボンを取付

多くのお母さん方には大量の布地にアイロンをかけて裏地を取付、リボンへと加工して頂きました。これを、土台に取り付けていきます。とにかく時間と人手が必要な作業が長々と続きます。

■松浦由紀子さん（5年保護者）

附属坂出創立100周年おめでとうございます。このような大きな節目のイベントに参加できて光栄です。大変な作業もありましたが無事完成でき、子供達の心の中に良い思い出として残ったのではないのでしょうか。皆様本当にお疲れ様でした。

■三保登茂さん（6年保護者）

4月になってから本格的に動き始めたスクールデコレーションですが、参加当初はリボンの大きさもイメージできず、すべてが手探りだったように思います。ですが、実際に布を使った作業が始まると、お手伝いして下さる保護者の方も段々増えていき、おしゃべりしながらの作業は毎回とても楽しかったです。予想以上にたくさんの方々がボランティアに自主的に参加してくださったことで、附属坂出学園のわ（和・輪）を感じました。親子でこの記念すべき活動に参加できたことを改めて嬉しく思っています。ご協力くださった先生方や保護者の皆様に心より感謝いたします。

■松浦恵子さん（2年保護者）

スクールデコレーションの作業に参加して、本当に有意義な時間を過ごす事が出来ました。最初、大量の布と大きな木の枠を見た時に完成の想像が出来ませんでした。でも、服部さんの丁寧な指導の下、あれこれ試したり失敗したりするうちに、想像のものが形になっていくのを実感しました。当日、実際に組み上がった大きなリボンを見てすごく感動しました。懸命に作業を支えたPTA役員のみなさんを始めとする父兄のみなさんの、子ども達への温かい気持ちだと思えます。

■太田賢一さん（6年保護者）

創立100周年の記念事業のひとつとして校舎にリボンを掛けるというスクールデコレーションをする。「へえ～そんなことするのかあ、大変そうだなあ。」それが私の最初の感想です。そんな私が多くのお父さん方と一緒にリボンの台座を作成し出来上がった台座を校舎屋上に運び、組み立てるなんていうことをするとは思っていませんでした。一回目の作業に顔を出したら、何だか最後まで見届けたくなくなってしまったところでしょうか。撮影当日はお天気も良く、最高の写真が撮れたのではないかと思います。実は私も写真の中に写っています。リボンの裏側で、風で飛ばないように布の端っこを押さえていたからです。見えないって・・・そうですね。でも私は、その写真を見ればそのことを思い出すのではないかと考えています。私は製作作業の一部にしか加わっていませんが計画段階から試行錯誤を重ねながら段取りされた役員の方々はさぞ御苦労されたことと思います。児

童はもちろん保護者の中にも私のように感動した方々がいたと思います。良い経験をさせていただき、ありがとうございました。

■吉田亜紀子さん（3年保護者）

創立100周年おめでとうございます。白い校舎に真っ赤な大きなリボンやたくさんの風船、晴天からも祝福してくれているかのような虹、子ども達も帰宅後「リボンや風船すごかったね!」と大喜び。きっと子ども達の思い出の1ページに深く刻まれたことでしょう。このような素晴らしい行事を行っていただき、先生、実行委員の皆様には深く感謝致しております。さらなる附属坂出小学校の発展と子ども達の健やかな成長をお祈り致します。

■梶正子さん（5年保護者）

3人もお世話になってるから、お手伝いさせてもらおうと、参加しました。始めはイメージが湧かなくて、ひたすら言われた事を、ピーチクパーチクお話ししながら楽しんでましたが、思った以上に大変な作業ややり直し、追加作業に追い詰められました。でもやっぱり「母は強い」です。諦めません。父達もそれにしっかり答えて下さいました。だからこそあんな立派な物ができたと思います。良い経験体験をさせて頂きました。ありがとうございました。

■高木仁美さん（2年保護者）

創立100周年の航空写真で学校をデコレーションしようと計画し何度も話し合いを重ね校舎にリボンをかける事になりました。作業中にはいろいろな保護者の方と交流することができ絆を深めながら、巨大な赤いリボンが出来あがりました。とても楽しく人生の中でとてもいい経験が出来ました。子供達の記憶の中にもずっと残って欲しいです。この記念事業に参加できた事に感謝したいです。ありがとうございました。

■岡田涼子さん（5年保護者）

100周年の事業のお手伝いを少しですがさせて頂きました。最初はどのようなデコレーションにするかと言う話し合いから始まり、大きな屋上からのリボンになり、土台を組み立てて立体的にし、それが35度と言う傾斜が一番良く見え、また、リボンの膨らみなど皆のすばらしい考えやこだわりが一つになり、あのような迫力あるものが出来上がったと思います。作業は布を買いに行く所からすべて手作業で行われました。学年を超えてお母さん方と一緒に作業をさせて頂きとても楽しかったです。風船のアイデアもすごいと思いました。風船を子供達が手伝えた事で自分たちも参加したという気持ちが高まったと思います。当日は天気にも恵まれその姿が屋上から現れた時には大変感動しました。一つの物を皆で作る事は本当に素晴らしい

いと思いました。子供達にもお父さん、お母さんが一生懸命作ったリボンはずっと心に残る事だと思います。ありがとうございました。

■篠原由希子さん（2年保護者）

スクールデコレーション？校舎にリボンをかける？初めて聞いた時、この壮大な計画に一体どうなるのか想像もつきませんでした。皆さんがアイデアを出し合い、試行錯誤しながらの地道な作業。少しずつ形になっていき、最後には見事に青空に浮かんだ真っ赤なリボンと色とりどりの風船。何よりも保護者が協力しあって、頑張る姿を子供たちに見せる事が出来てよかったと思います。このような貴重な機会に微力ながらお手伝いをさせて頂き、本当にありがとうございました。

■岩井益砂江さん（5年保護者）

100周年にふさわしい、あっ！と驚く記念写真になったと思います。リボンの仕上がりを見たときは感激しました。保護者の協力、人とのつながりの大切さをあらためて感じました。また、当日、風船やリボンを見る子供達の素直な綺麗な目を見て、とてもうれしくなりました。

■三好秀紀さん（3年保護者）

創立100周年、おめでとうございます。卒業された生徒のみなさんと教鞭を取られた先生方、そして附属坂出小学校に携わられた方々、また生徒を優しく包み育てて頂いた校舎や運動場、遊具など全てのものに感謝を込めて、この大きなリボンが届けばとても満足です。これから、更に発展していくことをお祈り致します。スクールデコレーションに参加出来たことに感謝致します。ありがとうございました。

■木村真弥子さん（1年保護者）

「感動!!きれいだ!!感謝!!」時間が経った今でも5月30日に校庭で子ども達や先生方と一緒に感じた気持ちを思い出します。会長をはじめスクールデコレーションや100周年に関わるコアスタッフの皆様が多くの時間を注いでくださり、熱い想いを持って取り組んでくださった結晶だと思えます。メモリアルyearに入学出来た幸せを感じながら、1年生を代表して心より感謝申し上げます。また4月より新生活をスタートさせた1年生の保護者の皆様にも、お忙しい中度々お手伝いをさせて頂き本当にありがとうございました。毎回笑顔の絶えない楽しい作業で、異学年の保護者の皆様とも、より一層絆を深める事が出来ました。まだまだ続く100周年のイベントを子ども達と一緒に、皆さんで心をつなげて楽しんでいきたいです。

こうして大きなリボンを作っていました②



航空写真撮影3日前 運び込み・仮組

大きなリボンの部品が16ヶ。北校舎から南校舎の屋上に運び込み架台に取付、ようやく完成の姿が少し見えました。雨が降るかと祈るばかりです。



撮影まであと2時間 リボン組立

もう時間ありません。少し風はあるものの晴天です。とにかく完成を目指して全員で組み上げ、細部の微妙な膨らみを調整していきます。



撮影まで残り30分 まもなく完成

屋上からリボンを2本垂らして校舎の窓にはたくさんの風船が付けられました。時間がある限りリボンの完成度を上げていきます。そして、完成です。

100周年記念航空写真撮影に向けて



【校舎のデコレーションについての話し合い】



【リボンの下に取り付ける基礎作り】



【リボンに張りをもたせる布地を貼り付け】

それらの作業の一つ一つに参加されたボランティアの方々の学校や子どもたちに寄せる熱い気持ちが伝わってきます。私たちを温かく育んでくれた校舎にも100年分の「ありがとう」という思いが伝わることでしょう。

今までにない最高の航空写真ができあがることだと思います。撮影の日が楽しみです。

100周年を記念して5月30日（水）には、記念航空写真を撮影する予定にしています。

航空写真は、過去にも学校の節目ごとに撮影してきましたが、今回の撮影では、保護者の有志の方が撮影の際に趣向を凝らすこととなりました。

その趣向とは、校舎をデコレーションするという計画です。校舎全体をリボンでラッピングしたり、校舎の窓枠などをカラフルな風船でデコレーションしたりします。

そこで、航空写真の撮影日に合わせて、ラッピングやデコレーションの作業を急ピッチで進めています。

計画は、前年度の3学期から始まり、現在に至るまで何回も集まって話し合いや作業をしました。また、休日返上で作業に取り組んだこともありました。

リボンの長さは校舎全体を包むため、50m以上必要です。アイロンで裏地をつける作業は予想以上に時間がかかりました。また、リボンのふわとした感じを表すための土台作りも木材や丈夫な針金を用い、長い時間をかけて作成しています。